

岐阜県家庭教育学級実践事例

在宅取組型(中学校)

学校名等	養老町立東部中学校
実施日時	10月6日(月)~10月19日(日)
会場	各家庭
参加人数	285人
学習課題(分野)	あったかい言葉がけ運動~家族で川柳~(家族の大切さ)
運営者の願い	前後期の入れ替えである秋季休業期間を生かして、家や学校での出来事や家族や友達との会話など、日常のちょっとした瞬間を親子で話しながら川柳にして、お互いの気持ちに触れ、思いやりの心が広がるようにしたい。

学習の内容

家庭生活・学校生活をテーマにした本音で川柳

<取組方法>

- ・ 秋季休業期間前後の2週間で、各家庭で在宅研修として行った。
- ・ 県の家庭教育を实践する日、あったかい言葉かけ県民運動に賛同し家庭内で子どもと保護者が身近な出来事について話し互いのことを思いやって楽しく川柳を作るようにした。
- ・ 保護者本人の周りで起こった、楽しいことやちょっと残念な思い出と共にユーモアを込めて作ってもらった。
- ・ 昨年度の最優秀賞作品を紹介すると主に、本年度も副賞を贈呈できるよう予算化した。
- ・ 保護者の部、生徒の部でそれぞれ最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作2点を選ぶ。
- ・ 結果は、家庭教育通信に掲載し、保護者に伝える。

<作品紹介> 応募総数 71首

【保護者の部 最優秀賞】

何でもいい そんなメニュー どこにもない

【生徒の部 最優秀賞】

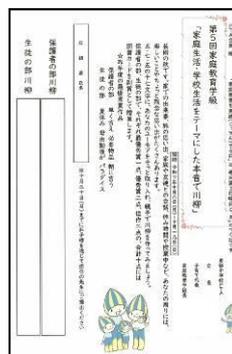
母思い 手伝いたら 身にしみた

<参加した保護者の感想>

- ・ 親子で楽しく話をしながら、毎日の生活のことや一緒に旅行に行ったことを振り返れた。
- ・ 学校生活のことや友達関係のことなど、子どもの様子を聞くいい機会になった。
- ・ 子どもは、思った以上に親のことを見ているものだと思った。親として、もっと子どもと会話していきたい。
- ・ 審査時に作品を見てみると、心が温まるものが多くほっこりした。
- ・ 「うちも同じだね」「この気持ち分かる」など審査員からの声が多く上がった。

<取組後の感想>

とても多くの作品が応募され、審査するのも大変でしたが、1つ1つの川柳を読むとそれぞれの家庭の様子が目に浮かんでくるようで、温かい言葉が各家庭で広がっていると感じました。来年以降も、家庭内の会話が一層増えるような取組を進めます。



人気の活動

本PTAでは、年間を通じて家族の会話を増やす活動に取り組んでいる。

その中でも、今年3回目となる「本音で川柳」は人気の活動で、笑みがこぼれるもの、思わず相槌を打つものなどが多く、家族の様子が目に浮かぶ。



家族の思いを感じ合う

家庭での温かい会話を増やすことが最高の家庭教育という考えをもって取り組んでいる。この川柳は県のあったかい言葉かけ県民運動の願いも受け実施している。

【保護者】

親だけが
焦りがつる
今日この頃

【生徒】

焦るのは
親だけじゃなく
私もよ
この作品のように、親子の掛け合いが見られる作品も多くあり、お互いの立場を考え、お互いの思いを感じ合える大切な時間になった。